

Vol.1

International Center
Fukuyama City University

2025 ANNUAL REPORT

福山市立大学 国際交流センター 年 報



2025年度（令和7年度）国際交流センター年報

目次 Contents

はじめに	1
1. 福山市立大学の国際交流	2
2. 学生活動の活性化	
(1) 海外研修プログラム	3
(2) 2025年度の海外研修報告	5
(3) 日本人学生の渡航実績・外国人留学生の受入実績	13
3. 教育効果の波及	
(1) 帰国学生による成果還元	14
(2) 高大連携事業	14
4. 国際交流イベント	15
5. 海外協定校との事業	16
6. 国際交流センター活動報告	19

はじめに

2025年度（令和7年度）国際交流センター年報の発行にあたって

福山市立大学 国際交流センター長
澤田 結基



2025年は、国際交流センターの組織が発足して最初の活動年度でした。新たに国際交流コーディネーターが加わり、さらに4校の海外教育研究機関との交流提携が結ばれるなど、スタートにふさわしい年となりました。

コロナ禍が収束して以降、海外からの観光客数は急速に回復し、福山市内でも多くの外国人観光客の姿をみかけるようになりました。また、医療や福祉、小売り店では外国の方が多数働いており、私たちにとって日常の一部になりつつあります。こうした国際化の進んだ社会へこれから巣立っていく学生たちにとって、国際交流の機会が貴重な経験となるはずです。

しかし、急速かつ世界的な物価上昇やガザ、イラク、ウクライナでの紛争など、海外渡航を取り巻く環境は困難な局面を迎えています。こうした状況にあっても国際交流の機会を絶やすことなく学生へ提供するとともに、日本の大学で学び、将来は日本で活躍したいと希望を持つ留学生の期待にも応えなければなりません。

国際交流センターでは、こうした学生たちの活動を支えるために活動のフィールドを拡大していきます。ぜひ、皆様のお力添えを賜れば幸いです。

福山市立大学の国際交流

福山市立大学では、国際交流事業をさらに充実させていくために2024年10月1日に国際交流センターを設立。
2026年4月現在、アジア、北米、ヨーロッパなど12カ国に19校の国際交流協定校があります。

国際交流協定締結校 一覧（12か国・19校）



★・・・2025年度 締結校

12カ国、19校 2026.4.1 現在

アジア圏（1）

- （モンゴル）新モンゴル日馬富士学園 ★
- （韓国）延世大学 統一研究院 ★
- （中国）南京曉荘学院 ★
- （中国）西南大学
- （中国）首都師範大学
- （中国）長春大学

アジア圏（2）

- （マレーシア）マレーシアイスラム科学大学
- （インドネシア）ダルマプルサダ大学
- （ベトナム）ハノイ工科大学
- （ベトナム）ベトナム国家大学ホーチミン市校
人文・社会科学大学
- （タイ）ランシット大学

欧米圏

- （アメリカ）ソノマ州立大学
- （アメリカ）アラスカ大学フェアバンクス校
- （カナダ）ケベック大学モントリオール校 ★
- （フランス）パリ・エスト・クレティユ大学
- （フランス）ソルボンヌ大学INSPE(教職大学院)
- （フランス）クレモン・オーヴェルニュ大学
- （クロアチア）ザグレブ大学教員教育学部
- （リトアニア）ヴェータウタス・マグナス大学

★ 新モンゴル日馬富士学園
（モンゴル）2025年9月

新モンゴル日馬富士学園、
公益財団法人渋谷育英会、
福山通運株式会社と産学連携
に関する意向書を締結。
モンゴルでは初協定。



★ 延世大学 統一研究院
（韓国）2025年11月

延世大学統一研究院、公益
財団法人渋谷育英会、福山
通運株式会社、三統韓国
株式会社と産学連携に関する
意向書を締結。韓国では初協定。



★ 南京曉荘学院
（中国）2025年11月

学部間協定であった南京曉庄
学院と大学間協定を締結。



★ ケベック大学モントリオール校
（カナダ）2026年1月

ケベック大学モントリオール校
と国際交流に関する覚書を締
結。カナダでは初協定。



海外研修プログラム

本学には、開学以来長年にわたって実施しているアラスカ大学「環境開発実習」等さまざまな国際交流プログラムがあり、毎年延べ数十名の学生が参加しています。

海外研修プログラム

時期	派遣先国	派遣先大学	プログラム名/対象	期間	プログラム内容
7月	アメリカ	アラスカ大学 フェアバンクス校	環境開発実習(アラスカ)※ /都市経営学部	2週間	アラスカの自然、文化、歴史、英語を学ぶ、日本の大学で唯一のプログラム。現地の学生との交流、野生動物保護センターやロケット発射場への見学、デナリ国立公園訪問も行う。
8月	マレーシア	マレーシア イスラム科学大学	海外語学研修2クラス※ (マレーシア) /都市経営学部	10日間	マレーシアイスラム科学大学（USIM）で現地の文化や生活を体験しながら、英語を学ぶ。USIMの学生バディと共にフィールドワークを行い、文化交流を行う。
2月 3月	オーストラリア	シドニー大学 又は マッコーリー大学	海外語学研修1クラス※ (オーストラリア) /都市経営学部	3週間	現地大学付属の集中英語学習コースでレベル別にクラス分けがされ、インテンシブに英語を学ぶ。地元のホストファミリーの家に滞在し、生活に必要な英会話を習得する。

※ 上記プログラムは都市経営学部対象のプログラムであるが、教育学部の学生も他学部履修で参加可能。

ゼミ研修・その他研修プログラム

時期	派遣先国	派遣先大学	プログラム名/対象	期間	プログラム内容
6月 9月	韓国	人権NGO、 報道機関、DMZ など	ゼミ海外研修（韓国） /都市経営学部（松浦ゼミ生）	3～5日間	分断と統一をめぐる朝鮮半島の現状について、延世大学や北韓人権市民連合、DMZなどを訪問し、歴史・人権・国際関係の視点から平和構築の課題と可能性を学ぶ。
4月 8月	中国	中国山西省 中国福建省	中日友好大学生訪中団 /教育学部・都市経営学部	1週間程度	中国駐大阪総領事館によるプログラムで、現地の大学を訪問し学生交流や中国文化体験を行う。また、世界古代史上最高層の木造建築や、ユネスコの世界文化遺産に登録されている文化遺産巡りなどを行う。
2月 3月	フランス	ソルボンヌ大学 INSPE(教職大学院)	ゼミ海外研修（フランス） /教育学部（大庭ゼミ生）	1週間程度	INSPEでの授業参加・招聘授業へのAT参加を通じて現地学生・教員と交流。パリの乳児保育所見学、保育学校・小学校で実地体験を行い、現地の保育・教育を実践的に学ぶ。パリのユネスコ本部見学や、市内歴史探訪・美術館見学を通して世界情勢や文化を学ぶ。
3月	中国	南京曉庄学院 幼兒師範学院	中国幼兒教育保育研修 /教育学部・都市経営学部	1週間程度	施設見学、授業参観、学生同士の交流親睦、教員同士の学術交流を行う。南京市内の有名幼稚園・保育施設の見学と学術交流、南京曉庄学院の附属幼稚園と附属小学校の見学、その他の社会教育施設の見学を行う。

アラスカ環境開発実習（アメリカ）

期間：2025年7月5日～20日
参加：9名
内容：アラスカ大学フェアバンクス校で英語集中講座受講、及びアラスカの自然、文化、歴史を英語で学ぶ。現地学生との交流、さまざまなフィールドワークが組み込まれている。

海外語学研修2クラス（マレーシア）

期間：2025年8月17日～26日
参加：8名
内容：マレーシアイスラム科学大学で現地の文化や生活を体験しながら英語を学ぶ。現地大学の学生バディと共にフィールドワークを行い文化交流を深める。



海外研修プログラム

海外語学研修1クラス（オーストラリア）

期間：2026年2月23日～3月22日

参加：8名

内容：集中英語学習コースでインテンシブに英語を学ぶ。
ホームステイを通じて日常英会話を習得する。



ゼミ海外研修（韓国）

期間：2025年9月17日～20日

参加：9名

内容：延世大学や北韓人権市民連合などを訪問し、平和構築の課題と可能性を学ぶ。



中日友好大学生訪中団（中国）

期間：2025年8月24日～30日

参加：6名

内容：中国駐大阪総領事館によるプログラムで現地大学を訪問し学生交流や中国文化体験を行う。



ゼミ海外研修（フランス）

期間：2026年3月4日～16日

参加：3名

内容：現地大学の授業参加、招聘授業へのAT参加、保育所見学や小学校の实地体験を通じて現地の保育・教育を実践的に学ぶ。

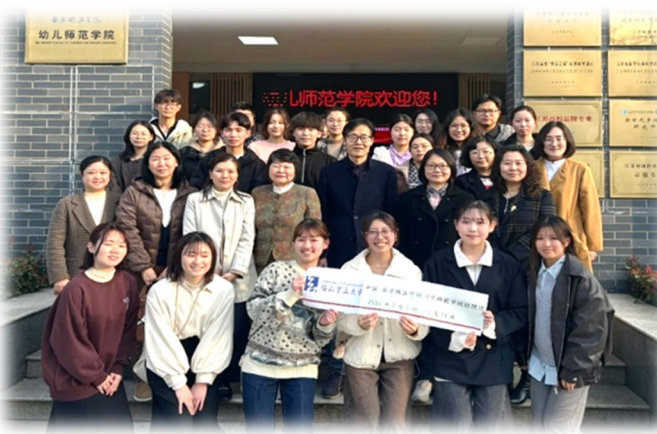


中国幼児教育保育研修（中国）

期間：2025年3月9日～16日

参加：8名

内容：施設見学、授業参観、学生同士の交流親睦、教員の学術交流を行う。



2025年度の海外研修報告

アラスカ環境開発実習（アメリカ）

学生氏名：森山 陽太さん
所属学部：都市経営学部 都市経営学科
参加学年：2年次
滞在期間：2025年7月5日～20日



アラスカでの学び

はじめに

2025年の7月の約2週間、アラスカで実施される環境開発実習に参加した。大学が提携を結んでいるアラスカ大学フェアバンクス校で英語の授業やアラスカの自然、先住民、文化などの講義を受け、休日には様々なアクティビティを体験した。ここではアラスカでの2週間で学んだことを3つにまとめたい。

○1つ目 日本では経験できない自然や文化

アラスカと聞いてまず私が思い浮かべるのは「とにかく大自然」である。まさにその通りで、空港を出た瞬間の空気や大学構内のうっそうとした木々、池やたくさんの蚊などまさに大自然を肌で感じる事ができた。また、特に到着してからの数日間は山火事の影響で空気がとてもスモーキーであったが、その一方で澄んだ空気も堪能できた。



アラスカは野生動物の宝庫である。週末には北米最高峰のデナリ（マッキンリー山）を含むデナリ国立公園でのバスツアーに参加した。往路ではほとんど動物を見ることができず諦めかけていたが、途中で雨が降り出した。その影響もあってか、復路では様々な野生動物を見ることができた。テレビや写真でしか見たことのなかったグリズリーベアーは遠くにいたため鮮明な写真にはおさめることはできなかったものの、その迫力に圧倒された。カリブーも生で初めて見ることができた。そして中でも印象的だったのはムースである。バスのすぐ横を通り過ぎ、手を伸ばせば届きそうな距離に現れた瞬間の興奮は、今でも忘れられない。その颯爽とした姿に心を奪われ、今回の実習の中でもベストショットといえる写真を撮ることができた。

文化面でも多くの学びがあった。チップ文化はアメリカでは一般的であり、私にとっては初めての経験だった。店員のサービスに対して追加で支払いをするもので、料金に対する割合にもいくつかのパターンがあることを知った。実際にダウンタウン散策の際に体験することができ、異文化を受け入れることの大切さを改めて実感した。



○2つ目 アラスカの人々のあたたかさ

アラスカの人々は優しいと渡航前から聞いていたが、実際には想像を超えるほど親切であたたかい人ばかりだった。ここでは2つのエピソードを紹介したい。

まず、スーパーマーケットでの出来事である。何度か訪れたアラスカのスーパーマーケットは非常に広く、どこに何があるのか分からなかった。友人へのお土産を買うため、思い切って店員にすすみを尋ねた。すると、私の拙い英語をくみ取ってくれ、さまざまなお土産を提案してくれた。さらに、どこから来たのか、どのような目的で来たのかといった会話の中で、日本人が好みそうな商品を調べて教えてくれたり、一緒に探してくれたりした。どの店員も終始笑顔であたたかく対応してくださり、とても感動した。

次に、バスでの出来事である。隣に座っていた年配の女性に話しかけられた。最初は内容を理解するのが難しかったため、英語が苦手であることを伝え、ゆっくりははっきりと話してくれた。彼女は学校の図書館司書として長年働いていたようで、その経験について話してくれた。また、私も日本について紹介し、会話が弾んだ。短い時間ではあったが、現地の人々のあたたかさを強く感じた出来事であった。

○3つ目 自分自身の成長

渡航前に2つの目標を立てた。現地の人と話すときは絶対に翻訳機を使わないこと、そして少しでも気になったことは必ず質問することである。この2つを意識することで、2週間の中で自分自身の成長を感じることができた。

白夜や米の少ない食生活など、慣れない環境に加え、参加者の中で自分だけが2年生であったこともあり、当初は不安が大きかった。しかし、この2つの目標を軸に、実習メンバーと積極的にコミュニケーションを取ったり、現地の方々と多く会話したり、分からないことを質問したりすることで、充実した日々を過ごすことができた。

また、自分の価値観を見つめ直すきっかけにもなり、日本にいただけでは気づくことのできなかった視点を得ることができた。この経験は今後の人生において大きな財産になると感じている。

○最後に

今回のアラスカ実習を通して得た経験は、どれもかけがえのないものである。この経験をたくさんの人に伝えていくことが私の役割だと考えている。海外に行くことは、不安や戸惑いも伴うが、それ以上に大きな学びと成長をもたらしてくれる。大学生の今だからこそ、機会があるならぜひ一歩踏み出し、海外に行くことを強くおすすめしたい。

最後になりましたが、環境開発実習に携わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



2025年度の海外研修報告

海外語学研修2クラス（マレーシア）

学生氏名：中原 由紀子さん

所属学部：都市経営学部 都市経営学科

参加学年：3年次

滞在期間：2024年8月18日～29日



マレーシアでの学び

マレーシア・イスラム科学大学は、マレーシア政府が全額出資する新興のイスラム系大学です。学部生11,327人、大学院生1,666人、留学生648人がいます。敷地面積は広大で、自然に囲まれ、学生生活を送るための様々な施設が充実しています。

8月19日、いよいよ研修一日目。セミフォーマルの服装で集まり、学内のセレモニー会場で学長挨拶、マレーシアの紹介などがありました。そして国歌「セジャトラ・マレーシア」を習い合唱しました。この研修期間中に、私たちはいろいろな場所・場面でこの歌を合唱し、マレーシアの人々の平和と繁栄を願う強い気持ちにたびたびふれることになりました。

滞在中の10日間、さまざまな座学と野外活動で、英語・マレーシア文化を学びました。グループで考え発表する学習形態では、バディーたちがサポートしてくれました。滞在中は、観光以外はすべて手作りの食事を校内で用意して下さいました。その内容や味付けは、日々私たちの口に合うように変化していきました。学内でも外出先でも常にミネラルウォーターの補充もして下さいました。その心遣いに感謝しました。

私たちと同じ時期に、インドネシアやタイの高校生も研修に来ていました。彼らは英語をとてと流暢に話します。彼らのプレゼンテーションと即興パフォーマンスを見学しました。他のグループが発表するときは、大きな声で声援します。日本人が一番苦手とする行為です。彼らの相手に対する思いやりを素晴らしいと感じました。また、マレーシアの伝統ゲームを教えてもらい楽しみました。昔のマレーシアの各地域での娯楽文化に触れることができました。

Butik Roti Mariaという川沿いの植物園も訪れました。3世代にわたる親子で運営されています。マレーシアならではの農業観光の教育施設です。訪問者に自然体験を提供するように設計されています。熱帯雨林の庭園には70種類の果樹が実っていました。小川で遊び、みんなで料理をしてランチをしました。素晴らしい家族とのふれあいと、自然の癒しの時間を体験できました。フィールドトリップでは、大学と同じ州にある、ミュージアム・ヌグリ・スンビランで、マレーシアの伝統建築・文化・生活・音楽を見学しました。私たちはお礼にセジャトラ・マレーシアを合唱しました。



マレーシアの見どころのひとつがクアラルンプールからバスで20分の、プトラジャヤ湖畔にある「ピンクモスク」です。アラベスク模様のドーム、室内の絨毯すべてがピンク色で、ため息が出るほどの美しさです。一度に15000人が礼拝できます。イスラム教はキリスト教に次ぐ世界第2位の信者数 約19億人を誇っています。マレーシアの人口の61%がイスラム教徒です。礼拝は1日5回義務付けられています。様々な場所、学校、ショッピングセンターにも礼拝所があります。就寝時間以外のほとんどの時間をバディーたちと過ごしましたが、その習慣が破られることは1度もありませんでした。断食はイスラム暦の9月に約1ヶ月間行われます。貧しい人々のために1年間で貯蓄できた中から喜捨も行います。食事は豚肉・お酒は禁止、服装は男女ともに体の露出を少なくし、女性はヒジャブというストールのような美しい大きな布で頭髪を隠します。人差し指で、ゆびさすことは失礼で親指を使います。頭は神聖な部分なので、相手が子供でも触ってはいけません。

インドネシアの学生と共に閉会式を行いました。私たちのグループは、日本文化を紹介する茶道のデモンストレーションを行いました。他のグループは書道を披露したり、ソーラン節を踊り、会場を盛り上げました。見学者の皆さんも、とても積極的に参加して下さいました。最後に、ゾライダ教授からのご挨拶と一人一人に終了証書をいただきました。そしてこのセレモニーは「スタンド・バイ・ミー」の大合唱で幕を閉じました。感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今回のマレーシアでのプログラムでは、多民族、他文化、宗教、等多くの事学びました。しかし私が一番学んだものは、心からのホスピタリティーです。12日間のマレーシア滞在中、学内だけでなく、様々な場所で私たちはホスピタリティーを体験しました。しかしそれが可能となったのは現地の皆様の綿密な準備と心からの配慮があったからでした。

短い期間でしたがマレーシアの文化を学ぶ中で、様々な人々と出会い理解しあう努力をしたことは、これからの私自身の生き方をお互いに助け合って進んでいくものに変えていきました。何よりも、世界の人々と理解し合うツールとしての英会話の必要性を実感した研修となりました。貴重な機会をありがとうございました。



2025年度の海外研修報告

海外語学研修1クラス（オーストラリア）

学生氏名：今村 菜名子さん

所属学部：都市経営学部 都市経営学科

参加学年：1年次

滞在期間：2025年2月22日～3月22日



オーストラリア研修を通して

私は1年生の4学期に海外語学研修を履修し、オーストラリアにホームステイをしながら1か月間滞在しました。私にとって初めての海外で不安もありましたが、様々なことを体験でき、とても充実した1か月でした。

オーストラリアについて

オーストラリアのビーチは本当にきれいでとても感動しました。そしてビルが並ぶ街の中にはハイド・パークという公園があり、街中にも関わらず豊かな自然が広がっていました。人々が芝生の上で寝転がったり、談笑したりしている姿を見て素敵だなと感じました。

また、オーストラリアは日本よりも多国籍の人が生活している印象を受けました。街を歩いても白人、アジア人など様々な人種の人とすれ違い、街にはタイ料理屋、中華料理屋、韓国料理屋というように国際色豊かな店が並んでいました。そのため自分が「外国人」として浮いている感覚はなく、オーストラリアの観光だけでなく他の国にいるような気分も味わえました。



英語学習について

オーストラリア滞在中、ILSCという語学学校に平日の午前中通っていました。そこでは様々な国の英語学習者と交流が出来、毎日楽しく通うことが出来ました。クラスは事前に受けたテスト結果に基づき英語のレベル別に分かれていたため、自分だけ英語力が劣っているということもなく、クラスメイトとの会話がしやすかったです。また日本の学校で英語学習をする時は、先生が分からない生徒に教える形になり英語を話すことに対してハードルを感じてしまいましたが、オーストラリアでは英語学習者同士「今先生なんて言った?」「何を食べているの?」といった些細なことも英語で口にするため、英語を話すことに抵抗を感じませんでした。先生たちも、質問をすると親身になって丁寧に教えてくださり、英語学習をする上でとてもためになりました。

ホームステイについて

私のホストファミリーは60歳代のご夫婦でした。空港からホストファミリーの家に到着したときはとても緊張しましたが、あたたかく迎えてくれてとても安心しました。ホストファミリーの家には、私よりも前からホームステイをしているメキシコ人の学生もあり、毎晩夕食を食べながらそれぞれの国の文化や食事についてよく話しました。皆、私にも分かるようにゆっくりはっきり話してくれたので楽しくコミュニケーションをとることが出来ました。

家は学校からバスで一時間弱かかり、少し離れた場所にあったのですが、登校前日にホストマザーが丁寧に行き方を教えてくれ、自信をもって登校することが出来ました。



また私のホストファミリーは毎晩食事をつくってくれました。オーストラリアに来る前はオーストラリアの食事が口に合うか不安でしたが、どれも本当においしかったです。また昼食は前日の夜ご飯の残りをタッパーに詰めてくれたり、サンドイッチをつくってくれたりしました。

そして休日は車でブルーマウンテンや動物園に連れて行ってくれました。コアラとカンガルーがとてもかわいかったです。



現地での交流について

学校の放課後はクラスメイトと出かけることが多かったです。オーストラリアの観光名所と一緒にいくのももちろん楽しかったのですが、タイ人の友達とタイ料理を食べに行ったり、韓国人の友達と韓国料理を食べたりしたことがとても印象に残っています。ただ味わうだけではなく、本場の人の食べ方や、自分の国で実際に食べているものとの違いなどを聞きながら食べるとより興味が深まりました。

また放課後には、学校でアクティビティというイベントがほぼ毎日行われていました。希望者が集まって折り紙をしたりテレビゲームをしたりするのですが、そこではクラスメイト以外の人と交流することが出来、自分よりも英語力が高い人との会話は私にとってとても刺激的でした。語学学校で出会った友達とは今でも連絡を取り合っています。



2025年度の海外研修報告

ゼミ海外研修（韓国）

学生氏名：山田 なつめさん
所属学部：都市経営学部 都市経営学科（松浦ゼミ）
参加学年：3年次
滞在期間：2025年9月17日～21日

●研修スケジュール

	内容
1日目	移動、ショッピング
2日目	ロッテワールド、懇親会
3日目	烏頭山統一展望台、近現代史博物館
4日目	冒徳宮、宗廟
最終日	帰国



韓国研修報告書

9月17日から21日にかけて、韓国を訪問する研修に参加した。韓国の文化や歴史について理解を深めるとともに、自分にとって初めての海外旅行ということで、国際的な視野を広げることができた。この報告書では、研修の学びや経験を振り返り、自分なりの視点で感じたことをまとめている。

●3日目：烏頭山統一展望台

北朝鮮の風景を見ることができる展望台に向かっている途中でちらほら有刺鉄線のようなものが目に入ってきたため、徐々に近づいているのだと実感がわいてきた。私たちが住む日本はただでさえ島国であるため、国境を感じる機会がほとんどないのでより緊張が高まった。

展望台の中の展示コーナーでは、南北の統一を願う展示や韓国と北朝鮮の比較をする展示などが見られ、広島市にある平和記念資料館と少し似た雰囲気を感じた。

屋外の双眼鏡が設置されているコーナーでは、実際に自分の目で北朝鮮の雰囲気を観察することができ、減多にすることのできない経験となった。そこで1人の韓国の男性と出会った。言葉はほとんど通じなかったものの、簡単な英語やジェスチャーで「自分は韓国人であること、南北で分断されてしまって悲しい顔」を伝えてくれた。「日本は大丈夫」と考えてしまっていて想像したことがなかったが、ある日突然分断されるということがどれほど残酷かということ、展示を見てそしてこの男性に出会って感じることもできた。展望台から景色の片方を見ればビルが多く立ち並び、もう片方を振り返れば農村地帯が広がり、車もほとんど走っていない状態の対比がとても印象に残っている。

●3日目：韓国近現代史博物館

この博物館は「博物館」と耳にしてイメージするような場所とは少し異なり、展示物が近くにあったり、実際に触れることができたりと当時の生活に入り込んだ感覚であった。所々に日本の影響を感じる展示があった。例えば、右のようなたい焼きなどがあげられる。私の親世代や祖父母世代の人々であれば、より懐かしく感じる資料が多いのではないかと思った。また博物館でもらった資料の中に、「日本帝国強制占有期を経て…」という言葉が書いてあり、韓国人にとってなくしてはいけない歴史、日本人にとって知っておくべき事実も感じられた。

●4日目：班別研修

班別研修として私たちのチームは、ソウル市内にある中で唯一世界遺産に指定された宮殿「冒徳宮」と朝鮮王朝の歴代王の位牌を安置している「宗廟」を訪問した。目的はバリアフリー・ユニバーサルデザインを発見することだったが、それぞれの建物のデザインを観察すること、歴史を想像しながらメンバーと巡ることが楽しかった。その中での1番の驚きは案内板の一部に点字が使われていることだった。日本に戻り調べ、韓国の点字であるかははっきり分からなかったが、世界中で広まっていることを実感できた。

加えて、チマチョゴリを着用していたため、興味を持った韓国の方が日本語で話しかけてくれたり、韓国以外の観光客の方に話しかけてもらい写真をお願いされたりしたときは国際交流ができて楽しかった。

●街中での発見

地下鉄に乗った時、優先席以外に日本にはない妊婦優先席が存在することに驚いた。優先席は黄色、妊婦優先席はピンク色となっており、混雑時でも空席になっていることが多く韓国に住む人は譲り合いの精神があることを感じた。さらに赤ちゃんを連れた女性が乗ってきた際に、広めの席を譲ってあげる方がいて、日本ではなかなか譲ってあげたい気持ちになっても行動に移すことができない人も多い気がしているので感心した。

●得られたこと

今回の研修は初めての海外旅行で、学びの多い貴重な経験となった。海外旅行をしたいと長い間思っていたため、全てが興奮の連続であった。同時に、この先の人生でさまざまな国を楽しみたいという思いがより強くなった。実際に自分が「外国人」として異なる文化や言語の中で過ごし、これまで日本で当たり前だと思っていたこと、世界共通だと思っていたことが実は当たり前ではないと気づかされる場面があった。また英語ではなくハングル文字ということもあり、行先さえなかなか読むことが難しかった。このような経験を通して、日本で会う外国人の観光客の方々も同じような苦労をしていると思った。観光客の方が感じている不安や戸惑いに対して、少しでも手を差し伸べられることがあるのではないかという気持ちが芽生えた。

そして班別研修のテーマをバリアフリー・ユニバーサルデザインにしたことで、海外におけるマイノリティ(目や耳が不自由な人など)に目を向けることはあまりしたことがないと気づき、改めて考える機会となった。日本にいと見落としがちなの視点を持つことで、自分の価値観を広げることができたように感じている。これらの気づきは、今後の卒業論文のテーマや視点にもよい影響を与えるかもしれないと感じた。

異文化に直接触れることで得た学びは、大学内で勉強したり、インターネットで検索したりして得られるものではなく、自分自身の視野を広げる一歩になったと強く感じている。



2025年度の海外研修報告

中日友好大学生訪中団（中国）

学生氏名：赤星 宙さん
所属学部：教育学部 児童教育学科 教育コース
参加学年：3年次
滞在期間：2025年8月24日～30日



訪中団報告書

私はこれまで、正直なところ、ニュースや報道を通じて中国に対して否定的なイメージを持っていた。しかし、それは自らの体験に基づいたものではなく、単なる先入観にすぎなかった。そこで今回、訪中団として実際に中国を訪れ、中国の文化や人々と直接交流することで、自分の目で確かめたいと思い参加した。結果として、当初抱いていた印象は大きく変わり、中国の魅力を多方面から知ることができ、心から好きになった国となった。

まず、中国の人々と交流する中で、その温かさや親しみやすさを強く感じた。日本語を学んでいる中国の学生と文化について教え合い、両国の共通点や相違点を理解することができたことは、互いの距離を縮める貴重な機会となった。また、夜市やショッピングモールを訪れた際には、言葉が通じない日本人だと分かったと、店員の方々は翻訳アプリを使って丁寧に説明してくれたり、少しおまけをしてくれたり、親切に対応してくれた。さらに周囲のお客さんまで「これがおすすめだよ」と声をかけてくれるなど、中国人の持つサービス精神や人情の厚さに感銘を受けた。訪問時期が抗日戦争80周年記念式典の直前であったにもかかわらず、日本人に対して嫌な態度を示す人はおらず、むしろ温かく迎えてくれたことも心に残った。以前の私は、中国に対して一部の否定的な報道だけを見て「そういう国だ」と決めつけていたが、その考えがいかに浅はかであったかを痛感した瞬間であった。

また、交流だけでなく、中国の歴史や社会の一端にも触れることができた。たとえば、中国には日本の古墳のような遺跡があり、それが5000年前に築かれたものであると知ったとき、中国の歴史の壮大さと深さに圧倒された。さらに、交通事情の違いも興味深かった。道路には必ず二輪車専用レーンがあり、自転車のシェアサービスは非常に安価で、どこでも利用・返却が可能であった。そこからは二輪車の普及度や利便性への工夫がうかがえ、中国社会の柔軟さや合理性を感じ取ることができた。

今回の訪問を通して、短期間ながら中国が急速に発展している背景についても考えるきっかけを得た。その発展は単に過去を切り捨てるのではなく、伝統を残しつつ新しい変化に適応していく姿勢の上に成り立っていることを学んだ。歴史と現代、伝統と革新を両立させようとする姿は、今後の日本社会にとっても大きな示唆を与えてくれるものである。

このように、訪中団としての経験は、私の中国観を大きく変えた。かつての否定的な先入観は消え去り、中国の人々の温かさ、歴史の壮大さ、そして社会の柔軟さに触れることで、心から魅力を感じる国となった。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に深く感謝するとともに、今後も再び中国を訪れ、さらなる交流を重ねたいと強く願っている。



2025年度の海外研修報告

ゼミ海外研修（フランス）

学生氏名：宮西 里穂さん、島田 彩里さん、塩平 莉子さん
所属学部：教育学部 児童教育学科 保育コース（大庭ゼミ）
参加学年：3年次
滞在期間：2025年3月3日～11日



フランス研修を通して

乳児保育所や保育学校、小学校への見学、交流を通して、子どもたち一人ひとりに合わせたリズムで保育、教育を行い、子どもにとって「安心する」ことを第一に考えていることが印象に残った。また、施設の中が日本と比べて明るいように感じた。子どもたちの作品を飾っていたり、今までの授業で学んだ公式のようなものを掲示していたりと教室や廊下などの部分が明るく、より楽しそうに感じた。

午睡ではお気に入りの人形を持って寝ると知り、保育学校の中にも家族や家庭を感じることができる場所が素敵だと感じた。乳児保育所を訪問して、実際に屋外で昼寝をする様子に驚いたが、フランスでは外の空気を吸う機会が少ない子もいる、外の方がぐっすり寝る傾向にあるという説明をきき、屋外昼寝の必要性やメリットを知った。保育所のデイリープログラムに子どもが合わせるのではなく、一人ひとりの睡眠リズムで午睡をすること、安心してぐっすり寝ることの大切さを学んだ。

また、フランスで平和の手遊びをすることで、日本で平和の手遊びをした時よりも、自分のまわりだけが平和であればいいのではなく世界が平和であってほしい、子ども達に平和を伝えていきたいという思う気持ちが強くなった。

研修の中では、保育学校の子どもたちやフランスの大学生と一緒に折り鶴を折る機会もあった。保育学校の子どもたちは大学生と違い、英語が十分に通じないため、どのように説明したら良いのか悩んだが、子どもたちから見て同じ向きに紙を置き、少しでも分かりやすいようにしたり、指でさして伝えたり、擬音を使って伝えたりといった方法で実践した。フランスでは折り紙を折る習慣がないため、細かい作業が必要な折り鶴に苦戦する様子が見られたが、折り方が分かったときや自分の力でうまく折れたとき、完成して広げたときの満足そうなキラキラした目がまぶしかった。



フランスでは大学と現場が協力して、私たちのような保育を学ぶ学生が保育学校で定期的に実践する機会があり、直後に行うカンファレンス（振り返り）で保育学校の先生と大学の先生、学生が意見を交換し、次の実践や学びに活かせるやり方が効果的と感じた。参加したカンファレンスでは、「時間が足りなかった」「適切な言葉を使うこと」「できた子への声かけが難しかった」などの反省があり、実習を経験した私たちにも共感できることが多く、フランスの学生も同じような悩みを抱くことが分かり、振り返りに参加することができて良かったと実感した。

内容の濃いフランス研修を通して、これまで知らなかった日本以外の保育、教育の実態を実際に目のあたりにした。違いに驚くと同時に、なぜ違うのだろうといった疑問が自分の中で生まれ、今後、追究していきたいと考える機会になった。

日本ではまだ当たり前と捉えられがちである「みんな一緒に、一斉に」という考え方は、フランスで見学した保育・教育機関では必ずしも当たり前ではなく、特に午睡の際は一斉に起こすのではなく個々にとって必要な睡眠がとれるようにしている点が印象に残った。日本ではデイリープログラムに則っているが、フランスでは個々のリズムに合わせて日々の生活を展開していることが分かった。



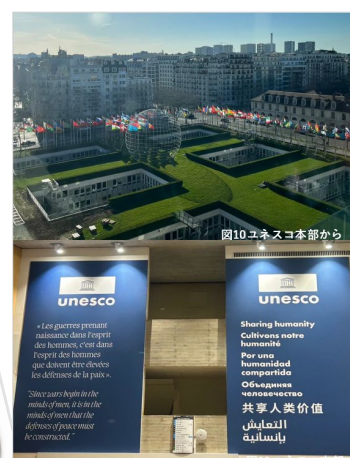
UNESCO で伺ったお話からは、教育改革において、国と国をつなげて良いところをどう取り入れるか考えるとともに、幼児教育において「守らなければならないスタンダード」の部分について考慮する必要性を考える機会となった。何を見直したり取り入れたりするのか、という変える部分だけでなく、子どもにとって変えてはいけない部分、現時点の幼児教育において上手く作用している部分についても考える必要がある。

今回のフランス研修を通して既存の価値観が大きく広がり、より多角的に物事を考え、自分自身の考え方や日本の現状を客観的に見るできるようになった。また幼児期・幼児教育は子どもの成長・発達において最も重視すべき点であることが改めて分かった。自分自身が目指している教育者・保育者という立場の重要性やその仕事の尊さを見つめ直すことができ、自分が現場でできること・考えるべきことは何かについて、これからの大学生活・卒業後の進路でも考えて続けていきたい。

私たちのサバイバル体験

フランス初日、フランス語が話せない・読めない・スマートフォンの使えない環境で、私たち学生の持っている力だけを使って、パン屋さんを探した。さらに、ジェスチャーや笑顔を使って好きなパンを注文し、お店の方に手伝っていただきながらお金を払っておいしいパンを食べた経験をした。

言語に自信がなくてもどうにか
みんなが助けてくれるから
たくさん挑戦できる！



UNESCO本部見学（3/6）

- ・第二次世界大戦後1946年ユネスコ設立、加盟国・地域194
- ・発達の連続性を重視しており、学びの基礎を築く幼児教育に力を入れている。（Chang教育政策局長）
- ・小学校教育を幼児におろすのではなく、移行がスムーズになるようにする、国同士の交流を通して、保障しなければならない教育のスタンダードを各国に浸透させていく必要がある。（Diawara幼児教育部門責任者）

「戦争は人間の心の中で生まれたものであるから、平和の砦を人間の心の中に築かなければならない」

パリ歴史探訪



2025年度の海外研修報告

中国幼児教育保育研修（中国）

学生氏名：寺田 朱里さん

所属学部：教育学部 児童教育学科 保育コース

参加学年：3年次

滞在期間：2025年3月9～16日



自分の目で見て確かめてきたこと

福山市立大学と提携を結ぶ南京の大学、中国南京曉莊学院では、キャンパスツアー、授業体験、座談会が行われた。15学部あり、敷地もとても広いため棟の移動にはレンタル自転車やバイクを使用している様子だった。敷地内にある寮で生活する学生が多く、キャンパスツアーをしてくれた学生も寮生だった。食堂内には中国で人気のドリンクチェーン店もあり、私から見れば大学の敷地に家も道路もショップもある、ちょっとした街のように見えた。

授業体験で私は『幼児期の社会教育と活動指導』を受講させていただいた。授業形式は、先生がSNSのショート動画にアップされている様々な幼児の様子を撮影した動画を流し、それに対してグループワークで討論した内容を一人が代表して発表する。状況を分析しながら子どもに対する対応を検討していくというものだった。学生はグループごとに固まって円になるように向き合って座っていることから、グループワークがメインの授業だと分かった。最初は言語が分からず授業の雰囲気だけを楽しんでいたが、気を利かせてくださった先生や学生の皆さんが時折英語を織り交ぜてくれたり、翻訳アプリを駆使してどうにか議論内容を伝えようとしてくれたりした。そのおかげで「子ども同士の争いについてどう対処していくか」という議論には私たちも参加して検討することができた。



学生の様子としては、私たち日本人学生にもどうにか参加させようという努力してくれたことも含め、授業に前向きで意欲的な印象だった。その後の座談会で、国内が就職難の状況で、実際に現場の先生になるには相当苦労するとおっしゃっていた。普段の大学のテストからかなりの量勉強することが求められるようで、授業に意欲的なのも就職のハードルの高さが要因の一つであると考えられる。座談会で学生から出た質問内容に関しても「日本のインクルーシブ教育に関する授業は必修なのか」「心理学にも種類があるがこういった内容の心理学を学ぶか」など、内容に質の高さを感じた。様々な場面で垣間見られた、中国の学生の「学びをより深く追求しようとする姿勢」が、中国の教育現場の向上心に繋がっているのかもしれない。教師や教育現場の評価が重要視される社会構造であるため、出会った学生の皆さんのように各々自分なりの探究心を持っている方々こそが、見学させていただいた教育現場のような子どもの興味関心を引き出せる新たな環境を創り出し、今後も教育の質を高めていくのだろう。同じ教育学部生として刺激をもらう時間となった。

今回7泊8日の中国滞中で、実際に自分の目で確かめることの重要性を感じた。それは豊富な遊びの資源を駆使していた保育・教育現場でも言えることであり、私の海外での経験に関しても言えることだった。生活場面の中でも、最初現地に着いたばかりの頃は、正直お店の店員さんなどに対して「不愛想な態度だけど怒らせたのかな…」と感じる節もあった。注文の仕方に戸惑ったり、ホテルで鍵を中に置いたまま外に出てしまったりと汗が出てくるハプニングもあった。困った時は言語が通じないなりにジェスチャーや拙い英語で何とか相手に伝えようと表現する。すると向こう側も一生懸命耳を傾けて理解しようとしてくれて、私たちを何度も助けて下さった。むしろ愛想の良い日本よりも、注文の流れを付きっきりで教えてくださったり、ホテルの鍵が使えるか確認しにきてくださったりと最後まで手厚く親切だった。全体的な印象として中国の方々は、店員さんとお客さんが談笑していたり、公共のスペースで地域の人が集まって運動していたり、初対面の人との関わりでも積極的な気がした。もしかしたら日本人が特に照れ屋さんなだけかもしれない。一歩外に出てみることで、逆に日本が見えてくるということもあった。

何事も表面的に判断してはいけないと思ったと同時に、歩み寄る気持ちや相手に伝えようとする表現力を兼ね備えていることが重要だと実感した。これらは子どもの中に育ててほしい心や力でもあるが、私自身も磨き続けていきたいと強く感じた。今回の研修はとても貴重な機会で、楽しかった思い出も大変だった思い出も全て人生経験であり、少しはたくましくなったと思う。



日本人学生の渡航実績・外国人留学生の受入実績

日本人学生の渡航人数

渡航目的	渡航先	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
授業 (環境開発実習)	アメリカ	0	13	13	9
授業 (海外語学研修)	マレーシア・ オーストラリア	0	0	13	16
協定大学訪問	中国・フランス	0	4	12	3
語学研修・ ボランティア等	中国・韓国・ 東南アジアなど	3	14	34	32
サークル活動	カンボジア・ インドネシア	0	9	0	7
合計		3	40	72	67

外国人留学生の受け入れ人数

国又は地域	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
中国	4	3	2	2
韓国	0	1	1	1
合計	4	4	3	3

教育効果の波及

帰国留学生による成果還元

中日友好大学生訪中団報告会 2025年5月1日

4/16～20までの行程で「中日友好大学生訪中団」（福建省福州・廈門市）に参加した学生による報告会を開催しました。



国際交流センターがオープン 国際交流報告会を開催 2025年6月5日

国際交流センター主催で、8カ国から11人の帰国生が海外体験を発表する報告会を開催。60人を超える参加者がありました。



国際交流合同報告会 2025年10月10日

国際交流センター主催で、アラスカ環境開発実習、マレーシア海外語学研修、中国友好大学生訪問団に参加した学生による合同報告会を開催しました。



高大連携事業

福山誠之館高校との合同報告会 2025年5月17日

大学生・高校生による国際交流報告会—北の国（アラスカ・ノルウェー）から学んだこと

本学と福山誠之館高校が連携して開催。大学教員、高校教諭、大学生、高校生がそれぞれ取組経験を紹介し、気づきや学びについて対談を行いました。



国際交流イベント

アメリカ ソノマ州立大学から教職員と学生が来学 2025年1月12日

協定校であるアメリカ・ソノマ州立大学から教職員と学生29名が本学を訪問。本学教授の講義を受講後、本学学生15名が鞆の浦の名所旧跡を案内しました。



〈本学学生とともに学食でランチ〉



世界バラ会議福山大会2025開催記念 日本語スピーチフェスティバル 2025年5月24日

7か国の海外協定校から7名の学生が、本学開催の日本語スピーチフェスティバルに登壇。来学した留学生3名は茶道体験や本学学生ガイドによる福山市歴史探訪を満喫し、学生交流を深めました。



新モンゴル日馬富士学園理事長（大相撲元横綱）来学・講演会 2025年12月24日

2025年9月に協定締結後、元横綱の新モンゴル日馬富士学園理事長 日馬富士氏が来学。学生や教職員、地域の方々を前に講演。来夏、同学園のサマープログラムに本学の学生派遣を計画しています。



海外協定校との事業

タイ・ランシット大学で「第2回日本語スピーチコンテスト」を開催 2024年11月22日

作文審査を経たランシット大学の学生ら10人が参加。緊張した面持ちで、地元の交通に対する期待やエピソードを、日本語で思い思いに語りました。



中国・首都師範大学で「第19回日本語作文スピーチコンテスト」を開催 2024年12月22日

作文審査を経て本選に選ばれた、首都師範大学を含む6校の学生6人が登壇。約60人の聴衆が見守る中、流暢な日本語で発表しました。



ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学で「第8回日本語作文スピーチコンテスト」を開催 2025年3月8日

ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学を含む、ベトナム南部地域の予選を勝ち抜いた14大学から14人の学生が登壇。ホーチミンの交通事情や新たに制定された交通に関する法律などを取り上げたスピーチは、いずれもベトナム学生の日本語プレゼンテーション能力の高さを物語っていました。



海外協定校との事業

ベトナム・ハノイ工科大学で「第1回日本語作文スピーチコンテスト」を開催 2025年3月9日

ハノイ工科大学を含む近隣の予選を勝ち抜いた6大学6人の学生が、「交通」をテーマに書いた作文のスピーチに挑みました。



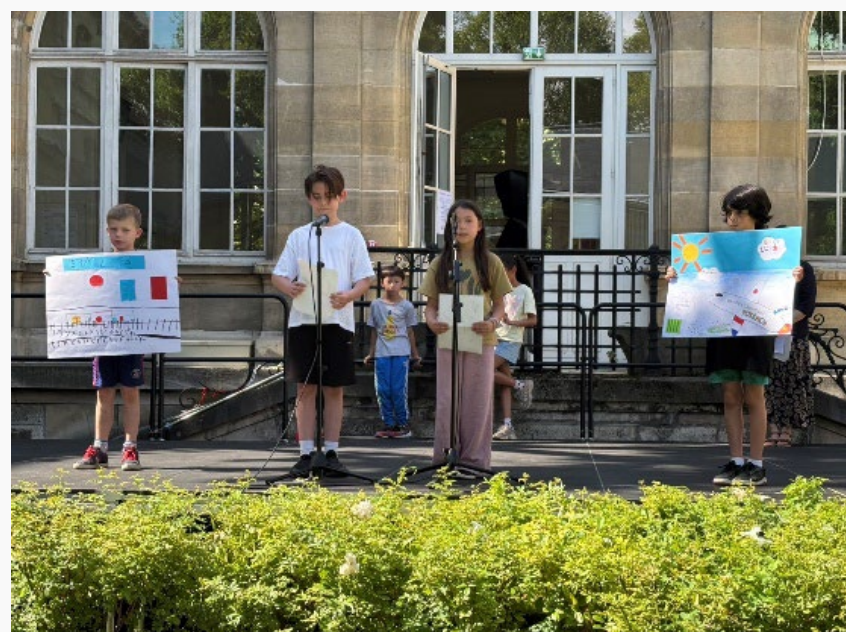
マレーシアイスラム科学大学で「第2回日本語作文スピーチコンテスト」を開催
2025年5月28日

8大学から15人の学生が参加。自らつづった交通に関する文章を披露しました。どの発表も、マレーシアで日本語を学ぶ学生たちのレベルの高さを物語る内容でした。



フランス・ソルボンヌ大学INSPE(教職大学院)で「第1回日本語スピーチコンテスト」を開催 2025年6月30日

ソルボンヌ大学の実習校になる、ミケランジェ小学校とブルソー小学校の児童が参加し、日本語でスピーチを行うほか日本の歌や俳句を披露しました。



海外協定校との事業

リトアニア・ヴィータウタス・マグヌス大学で「第8回日本語作文スピーチコンテスト」を開催 2025年9月23日

初級、中級、上級と合計11人の学生が参加。昔の馬から、バス、電車、バイク、そして未来の理想的な乗り物まで、様々な交通手段などについて綴った作文を、それぞれが声に出して披露しました。



アメリカ・ソノマ州立大学で「第3回日本語作文スピーチコンテスト」を開催 2025年10月28日

ソノマ州立大学と近隣の大学等から、昨年を上回る9人の学生が参加。日本語を学んでいる学生たちが、自らの体験に基づき交通安全について訴えた作文を声に出して披露しました。



インドネシア・ダルマプルサダ大学で「第10回日本語スピーチコンテスト」を開催 2026年1月10日

予選審査を勝ち抜いたインドネシアの各大学代表5人が、交通に関する体験などを交えて熱弁。いずれも日本語学習者数で世界第2位を誇るインドネシアの学生たちのレベルの高さを物語る内容でした。



国際交流センター活動報告

10.1.2024~3.31.2026

国際交流センター設立後、2024年度下半期の国際交流センター活動

2024	10/1	国際交流センターを設立。
	10/2	マレーシア短期英語研修の報告会を開催。
	10/17	ハワイ大学マウイ校の一行が本学を訪問。大規模な火災に対する義援金を贈呈。
	10/14	リトアニアのヴィータウタス・マグヌス大学で第7回日本語作文スピーチコンテストを開催。
	10/29	アメリカのソノマ州立大学で第2回日本語スピーチコンテストを開催。
	11/13	日中教育交流会に本学が初めて参加。
	11/22	タイのランシット大学で第2回日本語スピーチコンテストを開催。
	12/8	佐藤理事長兼学長らがベトナム・ハノイ工科大学を訪問。
	12/14	インドネシアのダルマプルサダ大学で第9回日本語作文スピーチコンテストを開催。
	12/22	中国の首都師範大学で第19回日本語作文スピーチコンテストを開催。
2025	1/12	アメリカのソノマ州立大学の教職員・学生が来学。特別講座や学生交流を満喫。
	2/13	クロアチアのザグレブ大学教員教育学部と国際交流に関する覚書に調印。
	2/20	韓国の延世大学から教員と学生が本学を訪問。
	3/8	ベトナムのホーチミン市校人文社会科学大学で第8回日本語作文スピーチコンテストを開催。
	3/9	ベトナムのハノイ工科大学と産学連携の意向書を締結。 第1回日本語作文スピーチコンテストを開催。

2025年度の国際交流センター活動

2025	5/17	福山誠之館高等学校との連携し「第1回 大学生・高校生による国際交流報告会」を開催。
	5/20	中日友好大学生訪中団に参加した学生の報告会を開催。
	5/24	「第20回世界バラ会議福山大会2025開催記念日本語スピーチフェスティバル」を開催。
	5/28	マレーシアイスラム科学大学で第2回日本語作文スピーチコンテストを開催。
	6/5	国際交流センターがオープン。学生の国際交流報告会を開催。
	6/30	フランス・ソルボンヌ大学INSPE(教職大学院)で第1回日本語スピーチコンテストを開催。
	7/19,7/20	オープンキャンパスにて「国際交流の部屋」を新設。本学の国際交流の魅力を紹介。
	7/26	福山商工会議所と福山市立大学の共催で外国人労働者向け日本語教育講座を開講。
	8/13	留学生との意見交換会を開催。
	8/16-8/26	マレーシアイスラム科学大学において短期英語研修を実施。学生8名が参加。
	9/3	新モンゴル日馬富士学園と国際交流に関する意向書を締結。
	9/23	リトアニア・ヴィータウタス・マグヌス大学で第8回日本語作文スピーチコンテストを開催。
	10/10	国際交流センターが合同報告会を開催。
	10/11	初めての日本語教育講座修了式を開催。19人全員に修了証を授与。
	10/28	アメリカ・ソノマ州立大学で第3回日本語作文スピーチコンテストを開催。
	11/7	学部間協定であった南京曉庄学院と大学間協定を締結。
	11/14	韓国の延世大学統一研究院と大学間協定、国際産学連携協定を締結。
	11/22	福山商工会議所と福山市立大学が共催する第2回日本語教育講座を開講。
	12/24	新モンゴル日馬富士学園の日馬富士理事長が来学し登壇。本学学生、教職員、地域の方々との交流会を開催。
2026	1/10	インドネシア・ダルマプルサダ大学で第10回日本語作文スピーチコンテストを開催。
	1/29	カナダ・ケベック大学モントリオール校と国際交流に関する覚書を締結。
	2/28	第2回日本語教育講座、修了式を開催。